

このコーナーでは、九州一安心安全なまちづくりを目指す小林市で活躍する人やその活動など、協働のまちづくりに関する情報を提供します。



防災・協働  
地区の子どもと高齢者が交流  
紙屋小で訓練など多彩な催し



地域医療  
子どもの健康や救急について  
幅広く知識深める



避難訓練の様子。4～6年生が参加し、高齢者の手を引きながらグラウンドへ避難しました

毎年開催されている紙屋地区高齢者交流会に合わせ、防災をテーマとした子どもと高齢者の交流会が11月10日、紙屋小学校で開催されました。地元の高齢者150人が参加し、紙屋小・中校生とともに、講話や避難訓練などを通して防災について学びました。交流会を企画した紙屋一徳まちづくり協議会の杉田藤子会長は「交流をとおして、また地域の絆が深まれば」と話していました。

「いっしょに学ぼう！地域医療」が、11月9日、中央公民館で開催されました。地域医療を守る会主催で、約60人が来場。救命法講習や救急講座のほか、あそびりテーションなど子ども向けのイベントも通して、地域医療を学びました。講師として登壇した西諸医師会小児科医師の沖美和先生は、「子どもを日ごろからよく観察し正しい判断ができるようにしてほしい」と受講者に呼びかけていました。



バルーンアートに挑戦。「企画を通して地域医療に関心を持ってほしい」と同会の山下浩司会長

取り組みを紹介します

きずな協働体 今月は、西小林中学校区

まちづくり協議会が企画。ネパールとの国際交流

児童や保護者が集まり、餅つきや学習発表会を行う西小林小の恒例行事「けやき祭り」が、11月16日に行われました。今回は、こばやしまちづくり協議会が、ネパールとの国際交流も企画。国際交流コーディネーター野田利典さん（野尻町）の紹

介で、留学生のネパール人10人が訪問し、餅つきで交流しました。その後あった講演には、今回の交流の支援を行った牟田壽さん（福岡県）が登壇。牟田さんは現地の様子などを説明しながら「お互いの文化を尊重し合う心が大切」と話していました。



牟田さんによる国際交流に関する講演

青少年育成・コミュニティ部会  
部会長 中里 みささん

ネパールの子もたちが書いた絵や手紙を貸していただき、学校に展示しました。



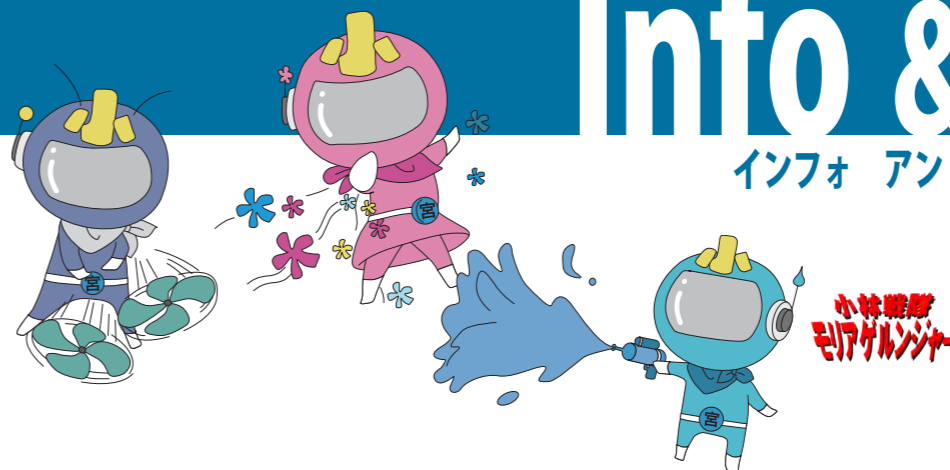
協働により「九州一安心安全なまち 小林市」を目指して

小林警察  
リアゲルンジャー も応援。

こばやし協働

Info & News

インフォ アンド ニュース



このイラストは、小林高校3年生 海蔵楓寧さんが（当時・永久津中3年生）小林市の活性化を願い作成したものです。市の自然（花、星、水、虫）がモチーフになっています。



自殺対策  
悩んでいる人の孤立防ごう  
ゲートキーパー養成講座



認知症対策  
地域ぐるみで声かけ学ぶ  
三ヶ野山3公民館で模擬訓練



J Aこばやし本所であった養成講座。ゲートキーパーの役割と傾聴の仕方について学びました

宮崎県の自殺率は全国ワースト上位で、西諸地域も例外ではありません。そのためには悩んでいる人の孤独や孤立を防ぐことが大切です。市では、対策の一つとしてゲートキーパーの養成を行っています。ゲートキーパーとは、仕事、生活、健康の不安や問題を抱え、心の健康をそこなっている人に早く気づき、話しを聴き、見守れる人材のこと。11月6日には、J Aこばやし本所で養成講座が行われ、職員45名が参加しました。

認知症の人や家族が安心して暮らせる地域づくりを目指し、野尻町三ヶ野山の東北八所、八所、瀬戸ノ口公民館で11月1日、徘徊模擬訓練が合同開催されました。住民ら約90人が参加し、声かけ体験などを通して、徘徊者への対応の仕方などを学びました。瀬戸ノ口コースの徘徊者役を体験した四位純徳さんは「事前勉強が役に立った。サロンなどの集まりで、日頃から勉強していくことが大切」と話していました。



徘徊者役に声かけをする八所の住民。おだやかな口調で名前や住まいなどを質問していました